



青学 往路優勝

5区 若林が中大を逆転



トップでゴールした青学大・若林宏樹選手（2日午後、神奈川県箱根町で）＝守谷遼平撮影

第101回東京箱根間往復大学駅伝競走（関東学生陸上競技連盟主催、読売新聞社共催）は2日、東京・大手町の読売新聞社前から神奈川県箱根町の芦ノ湖駐車場入り口までの5区間、107・5キロで往路が行われ、青山学院大が5時間20分1秒で、2年連続7度目の往路優勝を飾った。中央大が1分47秒差の2位、早稲田大が3位に入った。

青山学院大は各校のエースが競った2区で黒田朝日（3年）が力走し10位から3位に浮上、4区の太田蒼生（4年）が区間賞の走りで創価大を抜き2位につけた。5区は前回同区2位の若林宏樹（4年）が区間新の快走で中央大を抜きトップに立ち、そのままゴールした。

中央大は1区の吉居駿恭（3年）が区間賞で独走し、4区まで先頭を譲らなかったが、山登りの5区で青山学院大の逆転を許した。

4位は駒沢大、5位創価大、6位国学院大、7位城西大、8位立教大、9位東洋大、10位日本体育大だった。
（記録は速報値）